

ホームカミングデー 医療福祉・看護分野分科会報告

参加者が抱えている諸問題について、参加者同士で話し合い、担当の山川敏久先生からもアドバイスをいただきました。

代表的な課題を、下記にまとめて報告とさせていただきます。

- ・新しい施設を創設したが、入居待機の利用者が増える一方である。行き場の無い利用者も多い。

→医療・福祉の機能分化が進んでおり、施設完結ではなく、地域完結型の医療・福祉が求められる。その実現のためには、視点を変換したMSWの介入が重要であるが、個人レベルでは対応できない。地域のネットワークが必要。

- ・在宅・施設へ戻ることができない人が多い。医療的ケアを必要とする人が増えている。

→療養者を受け入れる側の在宅や施設の問題が大きい。療養者に関わる専門職それぞれの立場や考え方、施設機能、家族や療養者本人の意向や心身状態など、地域医療・福祉の実現に関連する要素は様々である。今後の展望の為にも、現在の地域の社会資源を理解することが重要。その際、実際に社会資源を自分の目で見て確認すること。

- ・医療職・福祉職でクライアントとの関わり方が違う。

→医療職と福祉職は、専門職としての学び、身につけてきた視点やアプローチの仕方が違う。それぞれの専門性を理解し、あまりジレンマを抱えないようにする。専門職としての違いを生かして、信頼関係を築き、他職種間の連携を図っていくことが重要ではないか。

分科会終了後も、山川先生や参加者同士で交流ができ、大変刺激を受けた1日となりました。

以上